

日本多施設共同コーホート (J-MICC) 研究
平成 26 年度 第 1 回 研究モニタリング委員会

日 時：平成 26 年 9 月 8 日 (木) 13 時 00 分～15 時 00 分

場 所：名古屋大学医学部 基礎研究棟 1 階 会議室 2
名古屋市昭和区鶴舞町 65

出席者 (敬称略)：岡山明 (委員長)、中山健夫、黒沢洋一、尾島俊之、岡村智教、井上真奈美 (以上、委員)
内藤真理子 (大幸研究責任者)、浜島信之 (伊賀市コホート研究責任者、前主任責任者)、
田中英夫 (主任責任者)、
若井建志 (中央事務局長)、菱田朝陽、森田えみ、川合紗世、岡田理恵子 (以上、中央事務局)

1. 平成 25 年度第 1 回研究モニタリング委員会議事録の確認

平成 25 年度第 1 回研究モニタリング委員会議事録の内容を確認した。

2. 倫理審査の実施状況

主任研究者 (田中) より、愛知県がんセンターおよび名古屋大学の倫理審査委員会にて、オーダーメイド医療の実現プログラム (バイオバンク・ジャパン)、東北メディカルメガバンク計画、および厚生労働省多目的コホート研究との共同研究実施に伴う研究計画の改定が承認されたことが報告された。

3. 研究進捗状況

中央事務局 (若井) より、2014 年 8 月末現在、J-MICC 研究本体で研究協力者が 75,000 名を超え、J-MICC 連合をあわせると全体で 10 万名に達したことが報告された。また第二次調査の同意者数は約 23,000 名、J-MICC 連合をあわせて約 37,000 名になったことが報告された。また在籍追跡中、転出、死亡、不明等の各人数の一覧が示された。委員より、愛知県がんセンターのがん罹患の扱いについて質問があり、主任研究者 (田中) より、研究目的によって除外する場合と除外しない場合があると回答された。

4. 第二次調査開始地区の研究計画の検討 (大幸研究、郵送調査分)

名古屋大学の内藤先生より、大幸研究第二次調査 (郵送調査分) の研究計画、調査実施手順書について説明がなされた。委員より、調査票への回答が不備であったときの電話での聞き取り調査について、郵送で行う方法もあり、またクオカードの受け取りに来所時に聞き取りを行う可能性も指摘され、内藤先生より検討すると回答された。審議の結果、研究計画を承認した。

5. J-MICC 連合について (伊賀市コホート研究)

中央事務局 (若井) より、J-MICC 研究と伊賀市コホート研究との間で、J-MICC 連合として共同研究を実施することについて提案された。伊賀市コホート研究は約 1,500 名が参加したこと、調査票は J-MICC 研究とほぼ同一であるが、検体の分注方法等が J-MICC 研究本体と異なることが説明された。委員より、最初から連合にする予

定であったのに、なぜ J-MICC 研究本体への参加としなかったかとの質問があり、名古屋大学の浜島先生より、当初 J-MICC 研究に参加できるほどの十分な参加者を募集できるか不明であったこと、J-MICC 研究のプロトコール通りの検体の分注をお願いできなかったなどの経緯が説明された。また主任研究者（田中）より、伊賀市コホート研究を J-MICC 連合に加える意義が説明され、審議の結果、連合の研究計画を承認した。

6. バイオバンク・ジャパンとの共同研究についての報告

中央事務局（若井）より、バイオバンク・ジャパンにゲノムワイド関連研究（GWAS）のためのコントロール検体の提供を行ったことが説明された。J-MICC 研究の独自研究に使用できる 14,551 名分の GWAS 用遺伝子型データが得られ、今後の活用方法について、J-MICC 研究内の会議にてルールを作成する予定であることが説明された。委員より対象者の抽出方法について質問があり、疾患のある人は除かず、96 名単位で原則ランダムに抽出したと回答された。

7. 個別共同研究の促進についての報告

中央事務局（若井）より、J-MICC 研究に参加する各サイトと外部の研究者との個別共同研究の促進に関する取り組みについて説明がなされた。これまでに 9 件の問い合わせがあり、うち 4 件は共同研究を実施中であることが説明された。委員より、問い合わせ内容は想定と異なっていたかとの質問があり、中央事務局（若井）より、想定通りコントロールの検体の提供の依頼が多かったため、コホート研究の意義について基礎研究者に説明し理解していただく必要があると回答された。

8. 横断研究ワーキンググループからの報告

中央事務局（若井）より、理研で遺伝子型を決定しての横断研究による論文作成状況について報告された。委員より、GWAS との計測方法の違いによる分類違いや、GWAS と調査票による性別の分類違いの可能性について指摘され、中央事務局（若井）より、その可能性はあるものの、理研側で GWAS の精度管理は行っていると回答された。

9. 食事調査ワーキンググループからの報告

中央事務局（若井）より、J-MICC 研究で使用されている食物摂取頻度調査票の再現性・妥当性に関する研究の進捗状況について報告された。また次世代多目的コホート研究で使用されている食物摂取頻度調査票との統合妥当性の検討も行っていることが報告された。委員より、参加者数が限られているため地域毎の結果は出せないのではと指摘され、中央事務局（若井）より、J-MICC 全体での妥当性、補正を検討する目的で行っていると回答された。

10. J-MICC 研究ホームページについて

中央事務局（内藤）より、J-MICC 研究公式ホームページが更新され、研究者へのインタビューを掲載したことが報告された。委員より、ホームページによる広報活動は充実しており素晴らしいと感じているとの感想が述べられた。また想定されるホームページの読者についての質問があり、主任研究者（田中）より類似のコホート研究や基礎研究を行っている研究者が多いであろうが、J-MICC Plus で一般の方向けにも情報発信を行っているとは回答された。

11. 学会・論文発表状況

中央事務局（川合）より、J-MICC 研究開始時からの論文・学会発表数について報告され、独自研究・共同研究分も含めると、原著論文が計 110 編、学会発表計 210 題であることが述べられた。

12. その他

主任研究者（田中）より、連携を結んでいる山形大学との共同研究の予定について説明された。山形分子疫学コホート研究参加者 1,000～1,500 名について、GWAS 用分析を行い、J-MICC 研究のデータと合わせることで、カバーする地域を北に広げる意義があると説明された。今後、モニタリング委員会にて持ち回り審議を依頼する予定である。

また主任研究者（田中）より、今年度で現在の研究モニタリング委員の任期が終了するため、日本疫学会に来年度からの委員の推薦を依頼する予定であることが述べられた。